

## 佐渡市トキビオトープ整備事業報告について

## 1 事業実施の経過

○平成19年度からトキの野生復帰に向け、餌場の整備拡大を目的として実施。

○平成19年度から23年度まではビオトープ整備、維持管理、冬期湛水等に対し補助。平成24年度からは、冬期湛水については、農林水産省の環境保全型農業直接支援事業(冬期湛水)に取組むこととし、本事業はビオトープ整備に特化した。

○平成23年度末に、平成19年度から平成23年度までの取組検証・評価を行い、今後の方針・事業計画の策定を行った。

○前回検証・評価し、事業計画を策定したものを元に、平成26年度に、平成24年度から平成25年度までの検証・評価を行った。

○平成28年度より対象地域を小佐渡東部から佐渡島内全域に拡大した。

## 2 事業実績

《面積・事業費》

年度	19	20	21	22	23
団体数	16	21	23	20	23
ビオトープ(m <sup>2</sup> )	140,993	272,923	345,285	352,000	315,600
冬期湛水(m <sup>2</sup> )	237,949	692,778	951,572	1,037,613	1,980,860
事業費(千円)	11,502	27,283	24,953	26,536	23,608
募金助成額(千円)	4,786	9,925	10,750	12,525	11,803

年度	24	25	26	27	28
団体数	18	20	20	19	22
ビオトープ(m <sup>2</sup> )	287,490	281,526	277,274	267,687	287,525
冬期湛水(m <sup>2</sup> )	—	—	—	—	—
事業費(千円)	8,803	8,667	8,497	8,052	8,616
募金助成額(千円)	4,401	4,333	4,248	4,026	4,307

年度	29	30	1	2	3
団体数	23	23	22	21	20
ビオトープ(m <sup>2</sup> )	292,637	297,756	285,213	283,253	300,210
冬期湛水(m <sup>2</sup> )	—	—	—	—	—
事業費(千円)	8,908	9,033	8,611	8,655	9,103
募金助成額(千円)	4,453	4,516	4,305	4,327	4,551

年度	4	5
団体数	21	21
ビオトープ(m <sup>2</sup> )	307,032	293,822
冬期湛水(m <sup>2</sup> )	—	—
事業費(千円)	9,383	9,012
募金助成額(千円)	4,691	4,500

《トキ餌場利用観察実績》

年度	21	22	23	24	25
観察団体数	6	10	12	11	10
観察時期	10. 1月	4. 5. 6. 8. 11. 1. 2. 3月	4～3月	4～3月	4～3月
観察場所(延べ)	6箇所	15箇所	114箇所	72箇所	143箇所
観察羽数(延べ)	10羽	23羽	300羽	157羽	657羽

年度	26	27	28	29	30
観察団体数	10	12	15	19	13
観察時期	4～3月	4～3月	4～3月	4～3月	4～3月
観察場所(延べ)	109箇所	94箇所	97箇所	102箇所	113箇所
観察羽数(延べ)	1, 209羽	2, 847羽	7, 387羽	8, 262羽	9, 193羽

年度	1	2	3	4	5
観察団体数	15	16	14	16	17
観察時期	4～3月	4～3月	4～3月	4～3月	4～3月
観察場所(延べ)	122箇所	156箇所	156箇所	168箇所	166箇所
観察羽数(延べ)	12, 055羽	14, 059羽	14, 118羽	23,179羽	21,092羽

### 3 検証・評価

#### (1) 検証

##### 《実施面積》

取り組み面積について、昨年度から若干減少した。要因として、人手不足や高齢化により取り組みをやめる箇所があったことによるものと考えられる。

これまでも課題となってきた高齢化と人手不足の問題は依然として残っている一方、コロナウイルス流行の影響が収まり、ボランティアの受け入れが再開されてきていることから、管理体制が再び確保される兆しが見えている。

また、管理を取りやめる箇所がある一方で、耕作をやめることとなった場所を新たにビオトープとする箇所も出て来ている。

##### 《トキの餌場利用状況》

昨年度までと同様に、小佐渡東部区域外でのトキの一定の利用が確認されているほか、前浜地域でのエサ場の利用が継続的に確認され、そのほかの地域についても同一箇所継続して利用している様子が確認されている。ほぼ日常的に利用しているとみられる箇所が多く見られたことから延確認数が大きく増加しており、ビオトープのエサ場としての重要性は引き続き高いものと考えられる。

##### 《餌となる生物の生息数の推移》

地域による種の偏りも少なく、多種多様な生物が確認されており、餌場としての効果が認められている。

#### (2) 評価

これまでの取組により、ビオトープ等が整備、維持管理されていることによって、トキが餌場を利用していることが確認されている。よって、本事業はトキの餌場維持確保に一定の効果があったものと考えられる。

#### 4 課題及び今後の事業の方向性

○昨年と比較し野外トキの個体数は微減となっているが、安定的な個体数の確保のためには、年間を通じた安定的な餌場となるビオトープの整備が今後も重要になることから、引き続き新潟県トキ保護基金推進委員会からの助成をお願いしたい。

○事業団体メンバーを対象に研修会を開催し、技術向上に努めていく。

○これまで取組んできた団体の中で、構成員の高齢化や人手不足などにより取り組みをやめる事例が出てきており、維持管理の人員をどのように確保していくかが課題として挙げられている。

○トキの生息範囲拡大のため、放鳥当初からトキが生息している南部地域および一定の個体数の生息が確認されている佐和田、相川地区での餌場拡大を図っていく。

○トキの餌場として重要な位置づけである「水田」の有効利用を図り、佐渡市が推奨する「生物を育む農法」と連携した中で、トキの餌場確保に努めていく。

#### 5 今後の事業計画

トキの餌となる生物の生息・生育環境の保全・再生を強化するとともに、人とトキがともに生きる島づくりに向けて、市民と連携・協働による環境施策を促進する。

##### 《施策の実施方針》

○トキの採餌環境に合わせ、効率的・効果的な餌場整備・管理のあり方を検討し、多様な生物が生息できる環境づくり、良好な生態系の再生を図る。

○モニタリング調査に基づくトキ生息環境の評価を実施する。

○貴重な生物が生息・生育する環境について、十分な理解が得られるよう保全保護活動を促進する。

##### 《事業計画》(令和6年度～)

事業実施面積及び予算は当面の間現状維持とする。